

演題番号

アジアにおける学校保健と健康教育の最前線 - 子どもたちの心と体を育む教育的アプローチとは? -

ともかわさち

○友川幸 (信州大学)

あさくらたかし

朝倉隆司 (東京学芸大学)

ゆあさ もとゆき

湯浅資之 (順天堂大学)

こばやしじゅん

小林潤 (長崎大学、国立国際医療研究センター)

【背景】

2000年の「FRESH」提唱以降、開発途上諸国で、多くの学校保健活動、および健康教育が実施されてきた。これまでの実践・研究活動の変遷を鳥瞰すると、学校保健活動の導入初期は、保健医療関係者主導による、駆虫サービスや、微量栄養素の投与、ピアエデュケーションの手法を活用した性感染症対策などが行われてきた。近年では、学校保健戦略の策定、それに基づく学校衛生管理活動、給食の支給等、学校の教師が主導で行う活動の充実が試みられている。今後の発展には、保健教育と保健管理活動の連動、子どもの自主性を育む学校保健委員会などの保健組織活動の重要性が求められている。

学校保健活動において、教育的アプローチを強化することで、活動の効果が、学校環境衛生の向上や、子どもへの保健サービスの提供にとどまることなく、子どもの日常的な衛生習慣や健康や環境に関する価値観の変容、さらに、批判的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力、想像力の涵養を促すことができるのではないだろうか。また、学校内外のヘルスプロモーション活動の促進による教師および学校の社会における役割意識の変容、参加・体験型の教授法の推進による、教師の教授力の向上等にもつながる可能性があるのではないだろうか。

【目的】

本ラウンドテーブルでは、子どもたちの心と体の成長を育むための学校保健や健康教育の実践および研究における教育的アプローチの必要性とその可能性を議論することを目的とする。

【方法】

話題提供者（発表者）が、現在、東南アジアのラオスで行なっている学校保健戦略の具現化のための教員養成課程での健康・環境教育カリキュラム、教材、および人材養成システムの開発研究を紹介する。その後、ファシリテーターの先導で、検討課題を中心にラウンドテーブル参加者から質問、コメント等を受付け、議論を行う。研究者/実践家等が様々な立場から、教育的アプローチの推進によりもたらされる学校保健や健康教育の新たな可能性と推進上の課題を検討する。

【ラウンドテーブルでの検討課題】

1. 開発途上国の学校保健活動における教育的アプローチとはどのようなものか？
2. 教育的アプローチを用いた活動が子どもと教師にもたらす効果とは？
3. 教育的アプローチの推進上の課題は何か？

連絡先：友川幸 sachitjp@shinshu-u.ac.jp